

ながいずみクチコミガイド⑦
愛鷹山と長泉町



長泉町の3/4は
愛鷹山なんだ!

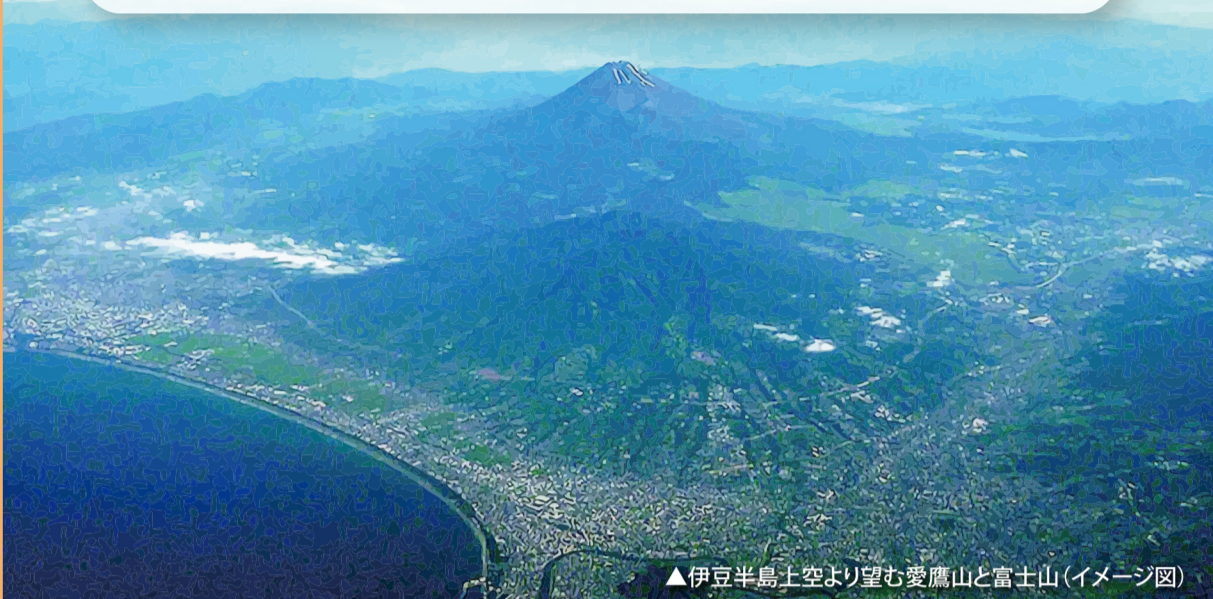
Enjoy!
 Naqizumi
 Sampo

発行 ながいずみ観光交流協会

■お問い合わせ

ながいずみ観光交流協会 (伊豆半島ジオパーク 長泉ビジターセンター)
 〒411-0943 静岡県駿東郡長泉町下土狩1283-11 コミュニティながいずみ2F
 TEL.055-988-8780 ■9:00~17:00 ■月曜定休

■写真・資料提供:沼津市明治史料館・後藤 治彦・加藤 光彦・鈴木 務 ■参考資料:裾野・長泉の伝説



▲伊豆半島上空より望む愛鷹山と富士山(イメージ図)

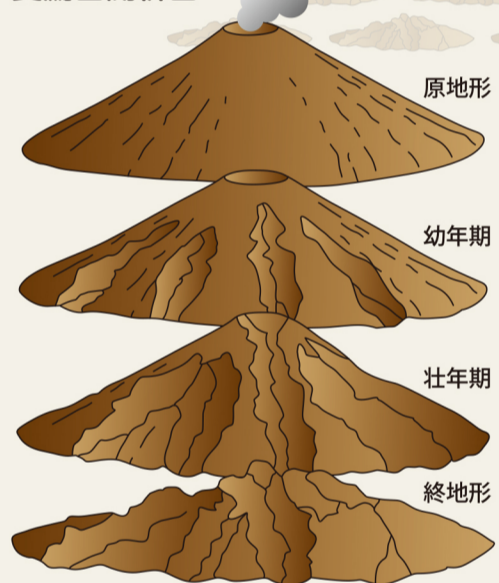
長泉町の3/4を占める愛鷹山地

愛鷹山地は、長泉町の3/4を占め、愛鷹山・位牌岳から、桃沢川や梅の木沢川の川筋を含む長大な緩斜面となっています。箱根山地を源とする黄瀬川から東は、富士山の噴火による溶岩扇状地で、上土狩地区から竹原地区にかけ、僅かな斜面となっていて、竹原地区から清水町、三島市を含む海底堆積物の沖積平野に連なっています。なお、町域の標高差は約1,380mです。

クチコミ
 その1 **愛鷹山は、かつて富士山同様の形をしていた**

富士山と駿河湾の間にそびえる愛鷹連峰。最高峰は、1504mの越前岳。愛鷹山は、かつて富士山と同様に、成層火山の典型的な形をしていましたが、開析が進み現在の形になったとされています。

愛鷹山開析図



9つの山頂(黒岳、越前岳、呼子岳、鋸岳、位牌岳、前岳、袴腰岳、大岳、愛鷹山)があり、一等三角点(見晴らしの良い場所に設置)を有するため、全国各地から、山岳マニアが訪れる山でもあります。

クチコミ
 その2 **古くは足高山と呼ばれた「富士の三足」の一つ**

標高800メートル以上の地域では、アシタカツツジなどの植物が生育。また、環境省の特定植物群落のブナの原生林が見られ、季節によってヤマボウシやトリカブトが咲き登山者に人気です。

富士山を中心に、愛鷹(足高)山、山梨県の足和田山、箱根の足柄山を「富士の三足」という言葉があります。三足は鼎(かなえ)の足のごとく高山富士を3方から支えているような姿を表しています。



▲清水区薩埵峠からの愛鷹山(イメージ図)



▲歌川広重の「東海道五十三次・原」の愛鷹山



▲箱根山からの愛鷹山(イメージ図)

クチコミ
 その3 **紫色で星形の花が咲き誇る「イワタバコ」の群生地**

愛鷹山のイワタバコは、水の滴る、垂直に切り立った岩壁に着生しています。例年7月の第一週の間、約一週間くらいの間、群生しているイワタバコを見ることが出来ます。紫色で星形の花たちが咲き誇る姿は、なんとも素敵な光景です。



クチコミ
 その4 **自然の営みを感じられる「倒木の森」**

台風や落雷などの自然災害により、森は死に絶えるのではなく、暗い森林に明るい光が差し込み、新たな木が育ち世代交代を繰り返しながら森が受け継がれていく…。ここ「倒木の森」は、そんな自然の営みを感じられる場所です。



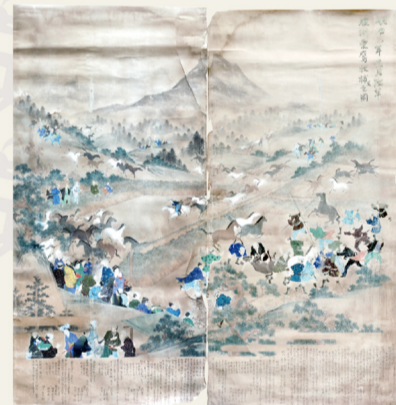
クチコミ
 その5 **むかし、愛鷹山中で、馬の放牧場があった!!**

愛鷹山には野生馬が数多く生息しており、寛政8年(1796)に江戸幕府によって牧が整備されました。牧は愛鷹三牧(霞野牧、元野牧、尾上牧)と呼ばれ、続いて尾上新牧も作られました。最初の三牧はすべて尾根の上であり、尾根上に放牧場を持っていましたが、尾上新牧だけは桃沢側の流れる谷間(現在の元長窪・御長屋地区)に作られました。

実は、この尾上新牧の放牧場が、位牌岳の南に広がる、本来の馬場平だったようです。現在の馬場平は、馬場としては地形的に険しい場所があり、馬を移動させる苦勞の割には広くないため、馬場として有用では無かったようです。本来の馬場平は、位牌岳の南から五輪塔あたりまでのなだらかな地形にあり、漏斗状だったため、細い尾根に馬を追い込みやすかったようです。

馬を下ろすときは、現在の登山道を使い桃沢川沿いに牧まで馬を下ろしたそうです。

尾上新牧跡地の碑▶
 元長窪・御長屋地先



▲駿州愛鷹牧捕獲馬之図(世古直登氏所蔵)



▲愛鷹四牧絵図(加藤光彦氏所蔵)



長泉からの愛鷹山地と富士山の素晴らしい眺望

愛鷹山(1188m)

袴腰岳(1248m)

位牌岳(1458m)

富士山(3776m)

前岳(1336m)

つるべ落としの滝(920m)▶

▶宝永山(2693m)

水神社(550m)▶

▲池の平(846m)

